

ケンボローセミナーIN 盛岡

2017年10月11日(水)にケンボローセミナーIN 盛岡を開催しました

PIC 社ヘルスアシュアランスチームの獣医師ジェローム・ガイガー先生（北アメリカ担当）及び獣医師エンジェル・マナバト先生（アジア地区担当）を招聘し、PIC 社のバイオセキュリティ及び疾病に対する最新知見についてセミナーを開催しました。

PIC 社のバイオセキュリティとは新しい病原体が陰性の群に侵入することを防ぐため、あるいは既に群に存在する病原体が拡散することを防ぐために使われるすべてのリソース、実践(慣例)、戦略のことです。

下記、セミナー内容の概要となります。

ジェローム・ガイガー先生のセミナー内容

① 新農場を立ち上げるうえでのポイント

- ・候補地周辺にリスクとなる他農場や施設がないか地域の詳細な地図や航空写真を用いて確認
- ・地図や航空写真だけでは全てを確認することができない可能性を考慮し、実際に候補地周辺を見て回る
- ・新農場の設計ではバイオセキュリティの観点にたつて、境界フェンスや事務所・出荷口のデザイン、人・豚・餌の移動フロー、死亡豚の処理など防疫ルールの確立

② エアフィルターを用いたバイオセキュリティ

- ・エアフィルターとはそれを通して外気を豚舎内に取り入れることにより、外気中に漂う病原菌やウイルスの豚舎内への侵入を防ぐ設備である
- ・エアフィルターは万能ではないが、PRRS の侵入のリスクも低減させるのに有効である
- ・過去 10 年のエアフィルターを使用している米国農場のいくつかの例では、新たな PRRS の侵入が 20%程度に減少していることが確認されている

③ 新しい疾病診断技術

- ・去勢の際に出る副産物の睾丸から抽出した液体を用い診断する技術（PRRS 診断の新技術）
- ・喉頭のスワブにより生体から採材し診断する技術（マイコプラズマ診断の新技術）
- ・これらの方法は簡易かつ効率的な新しい診断技術である

エンジェル・マナバト先生のセミナー内容

① 飼料に対するバイオセキュリティ

- ・米国で PED が蔓延した経緯から、飼料に対するバイオセキュリティの重要性が見直されている
- ・飼料工場では病原体が飼料原料に混じって導入されたり、原材料または製品の輸送やハンドリング中に病原体が混入したりするリスクを想定したバイオセキュリティの確立が必要

② フィリピンにおける PRRS のコントロール

- ・フィリピンの母豚 800 頭一貫農場における PRRS ワクチンを使用した改善プログラム及び離乳前事故率と離乳後事故率の推移について

本セミナーでは多くの方々に参加して頂きました。心より御礼申し上げます。

ケンボローセミナーの様子を紹介します



ジェローム・ガイガー獣医師



エンジェル・マナバト獣医師